

また、村の娘たちに、裁縫さいほう、家事かじ、行儀作法ぎょうぎさほう、看護法かんごほうなどを教えるとともに、産婆さんばの講習も行い、捨子の悪い習慣をやめるようにつとめました。

行き倒れの病人がいれば、寺に引きとり、生活に困っている人々には、お金が入るような内職を教えるなど、岩子の活動は、会津地方はもちろん遠くの地方にまで聞こえ、岩子をたよってくる貧しい人も、たくさんいました。

このようなことから、近くの人々は、だれ言うことなく、「ほとけ仏の岩子」と呼ぶようになりました。

福島での活動

明治十九年（一八八六年）の秋、日ごろから尊敬していた福島市にある長楽ちやうらく寺のおしよさんから、福島で活動することをすすめられ、岩子も貧しい人を